

令和 3 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	都市再生整備計画事業	会計名称	一般会計		担当課	都市住宅課	
		予算科目	8 款 5 項 4 目	事業番号	3735	所属長名	三谷陽紀
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	坪内悟	
法令根拠等	社会資本整備総合交付金				実施期間	【開始】	令和/平成 3 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 住みやすい都市空間づくり					【終了】	令和 7 年度(予定) <input type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	住む人と訪れる人が安全で快適に行き交うまちづくりの推進を図る。						
事業の対象	市民		事業の目的		郡中中心拠点地区は、伊予市の中心部に位置し、行政施設や教育文化施設、鉄道駅等の集積する人口集中地区である。また、商店街の古いまちなみ保全に向けて、景観計画重点区域に指定している。一方で、商店街では空洞化が進んでいることから、活力創出に向け更なるまちづくり事業が求められており、都市再構築戦略事業の一環として実施する。		
事業の内容 (整備内容)	市道整備 4路線、街路灯整備 10基、ポケットパーク整備 2箇所、耐震性貯水槽 1基、駐車場整備 1,100㎡ 防災広場 1 箇所 図書館・文化ホール前広場整備 1 箇所		昨年度の課題に対する具体的な改善策		今年度より第2次整備計画で事業を進めており、駅前周辺整備基本計画案を策定する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で調査会が開催できず、事業の進捗が遅れがでた。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)						
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	3 年度予定	9月末の実績	3 年度実績	
直接事業費	67,203	20,784	49,854	61,327	43,008	86,923							
財源内訳	国庫支出金	32,569	10,000	22,500	30,234	21,504	41,230	街路灯整備設計	箇所		1		1
	県支出金		0	0	0	0	0						
	地方債	28,900	0	27,400	26,300	16,900	36,800	社会実験地元協議会	回	0	5	4	7
	その他		0	0	0	0	0						
一般財源	5,734	10,784	△ 46	4,793	4,604	8,893							
職員の人工 (にんく) 数	1.00	1.00				1.00							
1人工当たりの人件費単価	7,812	7,841				7,841	小林池防災広場造成	箇所		1	1	1	
※ 直接事業費+人件費	75,015	28,625				94,764							
主な実施主体	直接実施		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)				市道整備設計	箇所		1		1	
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	5年間の合計			
					128,000	138,000	185,000	145,000	100,000	696,000			
成果指標	指標	当該年度末までの事業費÷全体事業費×100			単位	区分年度	前 年度	3 年度	4 年度	目標	7 年度		
					%	目 標	100	10	29	100			
	指標設定の考え方	実施計画に基づき工程管理を行ない、目標年度での完了を目指す。			⇒	実 績	98	4					
指標で表せない効果													

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		新型コロナウイルスの影響により、社会実験については、規模を小さくして開催することとなった。JR伊予市駅前及び周辺部の整備については、アンケート結果を基に基本計画案を作成していく。													
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	合計点が	A	事業成果・工夫した点	小林池防災広場については、令和4年度には供用開始できる見込みである。社会実験については、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小せざるを得なくなったが、実施することができた。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3							
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	4	合計点が	A			
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						3		
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	合計点が	A					
		コスト効率	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						4	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	合計点が	A			事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 今年度から5カ年の第2期事業が開始されたため。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						3		
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						3	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	合計点が	A						
	コスト効率	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	3				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						4	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
所属長の課題認識	所属長の課題認識	目的の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4	合計点が	A			JR伊予市駅前ロータリー一部や伊予夢みらい館周辺の整備等、関係者と協議を進め利便性の向上に繋がる整備を進めていく必要がある。		
		社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	4				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
		市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						3		14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 今後のまちづくりは、人口の急激な減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心で健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが、大きな課題となっている。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。		